

会議の概要

令和3年度 第6回

おおたま学園コミュニティ・スクール委員会

- 兼 ○ 大山幼稚園学校運営協議会
○ 大山小学校学校運営協議会

日 時：令和3年11月26日（金）16:20～17:50

場 所：大山小学校 体育館

（進行：大山小教頭 高橋 秀幸）

1 開会のことば （おおま学園コミュニティ・スクール委員会副会長 吉田 都）

みなさんこんにちは。寒い中お集まりいただきありがとうございます。また、大山小の職員の皆さまには会場を暖めていただきありがとうございます。それでは、これより令和3年度大山小学校・大山幼稚園学校運営協議会並びに第6回コミュニティ・スクール委員会（以下CS委員会）を始めます。よろしくお願いいたします。

2 教育長あいさつ （大玉村教育委員会教育長 佐藤 吉郎）

- みなさん、こんにちは。本日は、オープンスクールに引き続きこのような形でCS委員会を行います。大山小学校、大山幼稚園の先生方にも多数ご参加いただきありがとうございます。この後、大山小学校・大山幼稚園に特化した学校運営協議会の進め方について説明があるのでよろしくお願いいたします。
- 先ほど、学校訪問があり、所管の県北教育事務所の指導主事に授業を見ていただき分科会にも参加いただいた。分科会後の「指導のまとめ」の中で車田主任指導主事からお話があった。その第一声が「子どもたちの元気で自然なあいさつがとても気持ちよくすばらしかった。」であった。下校の放送が流れ、そういった中で子どもたちの自然な行動であり、心を動かされたということだった。これはとりもなおさず、本校が学校と家庭と地域と一体となって子どもたちを育てている取組みが、具体的な姿となって表れてきているのではないかと大変嬉しく感じた。
- 今日は限られた時間ではありますが、大山幼稚園・大山小学校のために、熱心な熟議をいただきますようお願いしあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。



3 おおたま学園コミュニティ・スクール委員会会長あいさつ

（CS委員会副会長 矢吹 吉信）

- みなさん、改めましてこんにちは。伊藤会長が所用のため欠席ということで代わってあいさつをさせていただきます。本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。また、大山小の校長先生を始め先生方には、オープンスクールに向けての準備等とても大変だったと思います。お

疲れさまでした。

- 先生方の情熱は子どもたちに理解されていると思った。それは、子どもたちが「やるぞ！」という意欲に満ちあふれた目で学習に取り組んでおり、今日はそういう姿を見ることができたからである。オープンスクールの機会に、私たちCS委員もこういう姿を見せていただけて嬉しいし元気をもらえた。
- 学校生活については、学校だよりや園だよりを見ると、コロナが落ち着いてきて通常の学校生活に戻りつつあるのかなと感じている。小・中学校の修学旅行、大山小の宿泊学習等も無事終わり、保護者からも「行かせてもらってよかった。」「とても楽しかったようだ。」等の声をたくさん聞いた。今後もコロナが落ち着いている間に、子どもたちのためにいろいろと工夫しながら様々な活動を進めていただければと思う。CS委員会としても全面的に協力させていただきたい。
- 本日の学校運営協議会は、大山幼稚園・大山小学校に特化した内容です。みなさん、どうぞよろしくお祈りします。

4 大山小学校・幼稚園出席者自己紹介

本日参加した大山幼・小の教職員が自己紹介を行った。

5 検討方法・課題の概要

(1) オリエンテーション

(大山小教頭 高橋 秀幸)

協議の進め方についての説明（付箋に書き込み、それを使いながら熟議を進める）

- ① テーマについて、学校・園、保護者、地域が協力して大山の子どもたちを育むという視点をもとに、「(学校・園、保護者、地域 それぞれが) できること・行いたいこと」を赤の付箋に、「(学校・園、保護者、地域 それぞれに) お願いしたいこと」を青の付箋に書き込む。
- ② 台紙に、記入内容に合わせて思考ツール「マンダラチャート」に整理しながら付箋を貼り付け、話し合いを行う。
- ③ グループで話し合った内容をワールドカフェ形式で共有する。

(2) 本校・園の教育活動について及び本日のテーマについて (大山小校長 舘脇 一弘)

(パワーポイントを使って説明。iPad 活用)

本日はご来校ありがとうございます。日頃より大山教育に対するご支援ありがとうございます。

今 iPad をみなさんに操作していただいたのは、(こちらで事前にセットしておくこともできたが) 日頃子どもたちがどのような操作をしているか体験していただきたいと思ったからである。実際に Zoom を使って全校集会を行ったりもしている。



それでは、大山幼稚園・大山小学校の教育活動についてお話しさせていただく。幼稚園、小学校共に大玉村が目指す教育「夢を育てる教育」のもと、「夢に向かってがんばる子」を教育目標にしている。

① 大山幼稚園の教育活動について

- 幼稚園では、めざす幼児像として3つを設定している。子どもたちは、「遊び」の中から様々なことを学ぶ。遊びを通して意欲的・積極的に学ぶ幼児の育成に努めている。そのために、子どもたちが自立して遊べるような環境を整えるとともに、個に合わせた支援に努めながら、興味・関心を持って自ら考えて工夫した活動ができるよう努めている。
- “Thinking Time” は、正に対話的で深い学びとなっており小学校の授業につながるものであ

る。大山幼稚園の先生方は子どもたちの考えを導き出すことが上手であるので、子どもたちは自信を持って自分の考えを發表することができている。

- 子どもたちは、中や外での遊びを通しながら友達、先生、地域の方々等多くの人々と関わることで豊かな心が育つ。積極的に人と関わる社会性を身に付けられるような場の設定に努めている。様々な交流の中で、友達と仲良く過ごすこと、そのためにはきまりがあることを知り、そしてこれから社会に必要な基礎を学ぶようになる。当然トラブルもあるが、そういう時に私たち教職員も保護者も決して過保護になることなく温かく見守りつつも、「これからの長い人生を社会で生きていくための土台作り」という視点で共通理解をしている。



- 『進んで遊ぶ』『なかよく遊ぶ』を支えるのは心と体の健康である。元気で思いっきり遊ぶことで「健康な体」を、最後まで諦めずに頑張ることで「たくましい心」を育てるための活動を工夫している。また、健康な体づくりのためには基本的な生活習慣を身につけることが大事になってくる。ご家族にも協力をいただきながら、「早寝・早起き・朝ごはん」「あいさつ」などを推進している。
- コロナ禍では新しい生活様式で過ごしている。例えば、年少児の中には、朝登園する際お母さんに連れられて来る子もいるのだが、その際マスクがはずれそうになっても、子ども自身が自分でマスクのひもを元に戻す姿が普通になっている。マスクの着用が習慣化されているなど感じる一場面である。

これからも「みんなで支え、みんなで育て、みんなが育つ 大玉の教育」の理念のもと、地域や各種関係機関と幼稚園が連携しながら取り組んでいく。

② 大山小学校の教育活動について

- 教育目標は幼稚園と同じで、『めざせ！夢に向かってがんばる子』～地域と共に、自らの夢に向かって努力し、未来を拓く子どもの育成～である。
 - ・めざす児童像…「進んで学習する子」「なかよく助け合う子」「健やかでたくましい子」
 - ・教育目標の具現化を支えるためのめざす学校像として、「子ども一人一人が主役の学校」を、めざす教職員像を「子ども一人一人に寄り添う教職員」をそれぞれ一番目に示した。
- 今年度は、コロナ禍だからこそ、こんな時だからこそ学校はワクワクする場所でありたいとの思いから「ワクワクプロジェクト」に取り組んできた。
 - ・これは、安達太良山をモチーフに全校生の夢がかかれたドリームアートである。コロナ禍で（校内）テレビ放送が増え、子どもたちがテレビに映る機会が増えたので、インタビュー番組を制作した。少しでも子どもたちがトップアスリートになってワクワクできたらなあと思った。オリンピックの聖火トーチを県内で一番早くにお借りした。新国立競技場（の映像）の前で、全校生が一人一人トーチを手にとって記念撮影を行った。
 - ・落語家の師匠にも来ていただき、本物に触れる体験を行った。
 - ・影絵教室では、子どもたちは映画のようなクオリティの高さに驚いていた。
 - ・今年の“Vamos Ohyama Deportes”は、コロナ禍のため運動会の内容を行った。当日朝の判断では、プログラムの開始時刻には雨は降り止むと予想していたのだが、最後まで雨が止むことはなかった。そんな中でも子どもたちの姿は素晴らしかった。やる気をもって一生懸命に演技し、友達を応援する姿に感動し、成長を感じた。6年生を中心に係

になっていた子どもたちも、天候に応じた原稿を自ら考えアナウンスする姿が見られ感心することが多々あった。

また、当日雨の中で子どもたちのために運動会を成功させようと一生懸命に行動する先生方の姿はありがたかった。「先生、大丈夫？寒くないの？」と声をかけてくれる子、運動会の後「運動会をやってくれてありがとう」と感謝の手紙を書いてくれた子がたくさんおり、子どもたちの中に思いやりの心が育っていることをうれしく思った。そして、学校を支えてくださる PTA の皆さま、縁プロジェクトの皆さまには、「子どもの笑顔が見たい」との思いから早朝からご協力をいただき、学校は地域に支えられているということを再確認した。

- ・ 5年生の自然教室における「五感を使った大玉の旅」では、多くの地域の方々にご支援をいただいた。最高の体験ができ、大玉村のよさを体感することができた。「フォレストパークあだたら」の皆さまには、子どもたちが過ごしやすいように心遣いをいただいた。野外炊飯の際には焼き芋の差し入れをいただいた。「ままやさん」には営業時間外の早朝から特別におにぎりを作っていただき、フォレストパークまで届けていただいた。「アットホームおおたま」の料理長さんは、5年生のおじいちゃん、おばあちゃんが育てた野菜とデビューしたばかりのお米「福笑い」を使って、お弁当と豚汁を作ってくださいました。また、パティシエさんがデザートも作ってくださいました。そして、これらをコーディネートしてくださいました矢吹 CS 副会長さんに感謝したい。
- ・ 11月13日（土）の朝は、各教室から自主的に発表会の練習をする声、楽器の音が響いていた。子どもたちは、家の方々に発表を見ていただけることにワクワクしていた。新型コロナウイルス感染症対策のため学年毎の入れ替え制とさせていただき、他の学年の発表を見ていただくことはできなかったため、他の学年の子どもたちの様子は YouTube で関係者限定で配信をした。また、当日子どもたちは、他学年の様子を教室で（生配信で）参観した。低学年の子どもたちが成長した様子、中学年の子どもたちが難しいことをできるようになったり、伝統をしっかりと引き継いでいる様子、高学年のお兄さんお姉さんのカッコいい姿等を応援していた。
- 本年度は特に ICT の効果的活用による学習活動の充実について試行錯誤しながら、積極的に取り組んでいる。村の ICT 教育支援員の馬場指導主事のご指導のもと、日頃の授業での効果的な活用方法を研究している。
 - ・ コロナ禍で幼稚園と直接交流できなかった1年生が、幼稚園に大きなシャボン玉の作り方を iPad で動画撮影して伝える姿に令和の新しい教育を感じた。
 - ・ グループチャットで探り合う板書、子どもたちのノート等を共有するオンライン保健授業、玉井小学校とのオンライン授業の実践等様々なチャレンジをしている。また、子どもたちが iPad を操作する様子を見てみると、細かなところを指で書きにくそうにしていたので、全校生に（今皆さまがお使いの）タッチペンを購入させていただいた。
 - ・ 一人一人が iPad を使用しての全校集会も行った。無事250台が一斉につながることが分かった。
- 地域の書道の先生に書写のご指導をいただいた。また、昨日は5年生が学校農園（＝地域の館下さんから借りている農園）で育てたそばを使って打った新そばをととても美味しく食べさせてい



ただいた。地域の皆さま、PTAの皆さまからたくさんの温かいご支援をいただき、教育活動が成立していることを幸せに感じている。

(3) 本日のテーマについて (大山小教頭)

要項6ページから本校及び本園のテーマに即した今年度の現況、そして課題等を成果をもとにとりまとめている。

- ① こちらの基礎的情報や今までご覧いただいた大山幼稚園、大山小学校の教育活動の様子についての意見等について、先程申し上げたようにお手元の付箋に様々な視点からご記入いただく。

↓

(約15分間)

- ② 付箋を貼り出す作業 (約15分間) ⇒ ③ ワールドカフェ形式での情報共有

6 話し合い、グループ別協議

各グループごとに進行 ⇒ ワールドカフェ形式による共有 (A → B → C)

- A-1、A-2、A-3 テーマ「読書に親しむ力を身に付けさせるために」(学習)
- B-1、B-2、B-3 テーマ「メディアを上手に活用する力を身に付けさせるために」(仲よく)
- C-1、C-2、C-3 テーマ「望ましい生活習慣や食習慣を身につけさせるために」(健やか)



7 グループ別協議内容共有 (代表)

< A-3グループ > 「読書に親しむ力を身に付けさせるために」(学習) について

私たちのグループでは、読書に親しむ力を身に付けさせるためにということで話し合いをした。

- ① 学校でも家庭でも読書に親しむ環境づくりを進めることが大事
- ・ 幼稚園であれば絵本コーナーを充実させる。
 - ・ 家庭生活の中ではふるさとホールをでの図書の利用、近隣市町村の図書館利用等を積極的に進める。
 - ・ 地域のボランティアによる読み聞かせを今後も継続する。
- ② 読書の習慣化
- ・ 絵本の日を年間を通して実施し継続していく。 <幼稚園>

- ・ 朝の読書タイムを毎日続ける。短時間であっても、借りた本を読み進めていく。〈小・中学校〉
- ・ 一週間のある曜日に本を借りる日を位置付ける。(本を読む習慣化のため)
→ 毎週〇曜日は本を借りる日。幼稚園では、絵本を貸し出しによる保護者とやりとりを通して、子どもの様子を見ながら個々の実態を知る機会とする。

・ 学校では

読書を広げる意味で、図書の紹介（こんな本を読んだらよかったですぜひ読んでみてください等）の機会を何らかの時間に設定する。

③ 授業で取り組んでみたらいいこと

- ・ 高学年の新聞の利用
- ・ 読書を生かして物語り文を書いてみる。
- ・ 学習した文学作品の著者の他の作品を読む。

④ アウトメディアデーの取り組みで、メディアと接する時間を減らして家での読書を進めてみてはどうか。



<B-3グループ>「メディアを上手に活用する力を身に付けさせるために」(仲よく)について

① 家庭・地域

- ・ メディア（インターネット、ゲーム等）の正しい使い方を家庭でしっかりと教える。約束を決めて、まず親が実行することが大事である。

② 幼稚園・学校

- ・ 親もメディアの使い方がなかなか分からないことがあるかもしれないので、専門家から講話をいただき、子どもと一緒に親子教室という形で学ぶ機会を設定することも必要である。

③ 学校・家庭・地域共に関わること

- ・ 「アウトメディアデー」が地域住民に理解されていないこともあると思うので、“防災おたまたま広報”で「今月の〇〇日がアウトメディアデーになっているので各家庭でご協力をお願いします。」等流してもらって、地域全体に周知させるとよい。

・ 言葉遣いについて

学校でも家庭でも言葉を大事に使えるようにする。子どもたちは、メディアの中でたくさんの言葉をあげている。意味をきちんと理解できていないこともあるので教育していく必要がある。

<C-1グループ>「望ましい生活習慣や食習慣を身につけさせるために」(健やか)について

① 家庭・地域

- ・ 生活リズムを整える。(朝食をとる習慣作り等々)
- ・ 歯磨きの大切さや、知らない間に虫歯が進行してしまう怖さについて子どもたちに伝えてほしい。
- ・ (朝食とも関連するのだが)食への関心がもてるようにする。

② 幼稚園・学校

- ・ 生活リズムを整えること等がなぜ大事なのかを積極的に発信していく。
- ・ 身体を動かす習慣づくり
- ・ 毎日楽しみながら食事できるようにすること
- ・ 肥満傾向が強い子には個別に指導していく。保護者との信頼関係を大切にする。

③ その他

AとBのテーブルの熟議の中身を聞いて、メディアにふれる時間を減らすためには、読書を増やしたり体を動かしたりすることが大事であり、それぞれが密接につながっていることを強く感じた。

8 講 評

(CS委員会副会長 矢吹 吉信)

お礼の言葉を申し上げます。今日は刺激の多い時間になりました。マンダラチャートを今日初めて見たわけですが、今後の私の仕事や人生に使わせていただければと思いました。これまでの大山小学校の様々な準備、そして皆さんの参加と熱心なご協議ありがとうございました。



9 御礼のことば

(大山小学校長 舘脇 一弘)

今日は、大山幼稚園、大山小学校の課題についてはAグループとCグループの皆さまに、そして、困りごとについてはBグループの皆さまにご協議いただきました。皆さんにお作りいただいたシートをしっかりと振り返って今後に活かしてまいります。本日はありがとうございました。

10 閉会のことば

(CS委員会副会長 舘下 愛理)

皆さん、今日はお疲れ様でした。小学校の先生方、会場準備から今日の運営までご苦労さまでした。これで令和3年度大山幼稚園・大山小学校運営協議会（第6回CS委員会）を終わります。ありがとうございました。